

平成26年度 第1回 芦別市子ども・子育て会議 会議録

【開催日時】

平成26年5月30日（金） 午後6時～午後7時30分

【開催場所】

子どもセンターつばさ 2階さくらんぼハウス

【出席者】

(1) 出席委員（委員一覧順、11名）

池田委員、須藤委員、橋本委員、小黒委員、木村委員、山谷委員、大下委員、  
木下委員、村上委員、松尾委員、小野委員

(2) 担当所管（8名）

市民福祉部 稲場部長

児童課 本村課長、工藤係長、小松園長、星川係長、佐藤係長、黒川主査、  
及川主任

【配布資料】

資料1 芦別市子ども・子育て支援事業計画骨子（案）の検討について

資料2 芦別市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査（集計報告書）について

資料3 子ども・子育て支援に関するアンケート調査について（前回会議配布）

資料4 芦別市留守家庭児童会の状況

1 開 会

- 2 委嘱状の交付 団体推薦委員（芦別市校長会選出委員）の退任に伴い、新任委員へ委嘱状を交付。

3 議 事

(1) 芦別市子ども・子育て支援事業計画骨子（案）の検討について（資料1）

- ・担当所管説明
- ・質疑応答なし

(2) 芦別市子ども・子育て支援に関するアンケート調査について（資料2、資料3）

- ・担当所管説明

委 員：アンケートの中ではいまの時代、不審者や交通事故という面で保護者が心配しており、留守家庭児童会を小学校に移転してほしいとの要望が多かつ

たので、早急に検討してほしい。

会長：今日は、学校の先生が来ておられる。学校側としてはどうか。

委員：これまでの私の経験では、他市町では学校内、児童館内、保育園内で開設されている例もある。個人的見解は控えるが、子ども・子育て会議の委員の一人としては、アンケート結果を踏まえて、教育委員会、学校等の関係機関と十分に協議をしていくべきことではないかと思う。

会長：保護者の立場からは、どうか。

委員：留守家庭児童会を利用したことがない。昔、留守家庭児童会は学校内にあったが、自分の子どもが入学した時には、学校内にないことが分かった。現在留守家庭児童会は、上芦別保育園の中にあり、自分の子どもが帰宅しても近所には友達がいない、学校で留守家庭児童会を開設していただければ、学校に子どもが残っていると、一緒に遊べるのではないかと思った。

会長：ほかに、何か感じたことはあるか。

委員：アンケートの中で、子どもセンター保育園と上芦別保育園が統合した場合、将来利用したい施設についての質問に対し、みどり幼稚園は213人、子どもセンター保育園は142人、上芦別保育園は26人、その他は8人となっていた。統合した場合、みどり幼稚園の数字が入っているのはおかしい。また、上芦別保育園の数字を見て、今後上芦別保育園の存続について考えるべきと思う。

会長：ご意見、ご感想ということで受け止める。

担当所管：上芦別保育園の定員は60人だが、現在は23人という状況である。同保育園の施設の中にある、留守家庭児童会（すみれ児童会）については、施設の老朽化から、同保育園の閉園後、上芦別小学校に移転する方向で考えている。上芦別保育園と子どもセンター保育園の統合については、アンケートをとっており、子ども・子育て支援計画に含めながら、今後子ども・子育て会議において考えていきたい。

会長：市もいろいろと考えているようである。このほかに、何かないか。

委員：芦別市には2つの子育てサークルがあり、私は両方の子育てサークルに所属していて、アンケートでサークルのことが知られていることがうれしく、これからも続けていきたいと思う。昨年度まではそれぞれのサークルの会員が十数名だったが、現在は二十数名になっており、賑わっておりこれからも続けていきたい。

会長：他にないか。

委員：今回のアンケートで、色々良いことも悪いことも書いてあるが、一つずつ改善の余地が大事と感じました。

委員：自分の子どもが小さい時に、子育て支援センターの子育てサークルに所属

していた。いま長男は中学3年生だが、現在も繋がりがあり、仲良く 続いているので、そういう活動を通じ、病院はどこに行ったら良いかなど、情報交換の場として非常に役立つと思った。ただ、このようなサークルに入会していないお母さん方がいるのも、実際問題あると思うが、温かく見守れるような環境があると良いのではないかと思った。

会 長：とても貴重なご意見だと思う。このほかに、意見はないか。まだまだ、沢山あると思うが、今日限りで、終わりではないので、また気づいたことがあれば、委員の皆様から色々な問題点や意見等を出していただきたいと思っている。今日も委員の方からご意見、ご感想があったので、所管でもこのことを良く検討してほしいと思う。よろしくお願ひしたい。

### (3) 芦別市留守家庭児童会（資料4）

#### ・担当所管説明

会 長：留守家庭児童会のご説明を頂いたが、何かあるか。

担当所管：説明の補足をさせていただく。留守家庭児童会を小学校へ移転したい。また移転した場合、今と同じように児童課を中心に運営体制は全く変わりない。児童課としては、指導員の派遣や施設の関係等、責任をもっていきたいと考えている。

会 長：このことについて何かあるか。私の方から質問してよいか。現在、待機児童はいないのか。

担当所管：6月2日から全員入会する予定であり、待機児童はいない。

会 長：分かった。幼稚園でも、満3歳から1日50人ぐらい子どもたちを預かる保育があり、午後6時15分まで預かっている。保育園は午後6時まで。アンケートの中で、もう少し遅くまで預かってもらいたいと書かれていたと思う。幼稚園では、初めは午後5時30分までだったが、保護者が仕事を終え、急いで帰って来ても、お迎えに行くのに30分かかる人がいたため、午後6時15分に延ばした。これは、私学のできることだと思う。保育園の朝の預かりについては、民間のサービスのようなものも入れたら良いと、私は思う。もう一つ、学童保育で言えば、都会ではお習字教室や元学校の先生の家庭教師とか、流行っている。長期休みの時には課外活動等、皆でキャンプに行ったりしているが、芦別の留守家庭児童会では、ただお預かりするのみなのか。

担当所管：年間計画をたて活動している。長期休みの時には、児童会のお祭りの実施や、図書館行事への参加、芦高の仮装行列の見学等の活動をしている。家庭教師はやっていないが、宿題は学校から帰ったら、宿題のある子は全員やることになっている。宿題のない子はこちらで用意したプリントなどさ

せ、学習時間を設けるようにしている。宿題の分からない子には、指導員がアドバイスをし、できない時には、保護者にその都度お伝えして、家で見てもらうようにしている。他におやつ、外遊び、自由遊びの活動になる。

会長：ありがとうございました。私の方から質問したが、委員の皆さんから、ほかにないか。まだ、お話しされてないかたは、いないか。

委員：報告事項では、議論するものではないと思う。会議自体は、子ども・子育ての計画を作る中で、個別な件をどうしていくかとやっていくものかどうかを、一度確認させていただきたい。まず、計画案のたたき台が出来た中で、個別な案件を見ながら、「アンケートの報告はこのようになっているので、委員の皆さんどう考えますか。」という進め方をされたほうがいいのではと思う。上芦別保育園の利用者数が減っているという意見の部分で、行政、施設管理の立場でいえば、利用数が減ってくれば統合という考えも必要と思うが、これから、子ども・子育てをどうしていくかという視点に立つと、5人でも10人でも利用したい人がいれば、そこは残してという考えも一つある、という議論をしなくてはいけないかと思う。事業計画ができた中で、よりいいものがあれば、統合も一つの方法だし、少なくとも利用者がいれば残すのも一つの方法と思う。

委員：確かに就学前の児童数が3人になっても、上芦別保育園はやるべきだと思うが、アンケートの数字をみると9割ぐらいの開きがある。みどり幼稚園には行きたい、上芦別保育園にはこのような数字なので、そこを私は指摘している。これが、みどり幼稚園150人であって、上芦別保育園に100人近くの数字であればというか、そのようになってほしいという考えである。そこには何か、上芦別保育園、子どもセンター保育園が、みどり幼稚園との違いを親は感じるから、このような数字の違いが出たのではないかと思う。そこを考えながら踏まえていってほしい。5人でも存続してほしいというのが、子ども支援のあり方だと思う。

委員：アンケートで出た、数字の結果を踏まえてということか。

委員：その通りである。

会長：計画案を立てる前に、委員の雑ばく的な意見を聞いてからということも、私は段階的には大切なことだと思う。計画案を立てる前の意見が大事だと思う。計画案を立てた時点で、個人的な考えだが、それに対し皆で議論することも継続的に大切なことである。

委員：いま、会長が言われたとおり、市役所の庁内検討委員会をして、市民アンケートを含めて計画案を作成し、委員会に提案する。その内容を、私たちが一番注意すべきだと思う。市民アンケートの創意がどこまで行政として

受け入れてくれるか。また、先ほど言われたとおり、上芦別保育園とみどり幼稚園だが、官と民とそれぞれのサービス面でいろいろあると思うが、その面でのサービスの差を少なくすることが、行政の仕事だと思う。会長が言われたとおり、女性の就労が促進している中で、市民として日常生活に支障がないよう、行政として市民の声を聞いた計画が出れば、いろいろな面で論議ができると思う。アンケートの中には、いろいろな要望や意見があるかと思う。それについて、会議で論議し、行政は行政の立場として受け入れ可能なことは受け入れる。これは必ず財政がからむことで、役所としてはコスト計算が先になってくると思う。アンケートの分析をして、会議に提案していただきたい。

#### (4) その他

会 長：その他、何かあるか。

担当所管：なし。

委 員：子ども・子育て会議には、毎回勉強しながら臨んでいるが、2回目の会議がホームページに掲載されていなかった。アンケートの結果を見ても、小さいお子さんに対し、市民の皆さんの意識が高いので、たぶん多くの市民のかたも、この子ども・子育て会議に意識があるのではと思う。私も1回目の会議録で、ホームページに名前が出た時に、知り合いからは、会議に入ったことを言われて、結構知っているものだと思い、市民の関心の深さを感じた。できれば、毎回会議の内容を早くホームページに掲載してほしい。

会 長：会議録を早く掲載することは可能か。

担当所管：速やかに対応する。

#### 4 その他

会 長：その他、何かあるか。

委 員：先ほど、留守家庭児童会の状況を説明いただいたが、現在、児童数が84人もいる中で、臨時指導員のかたが4人という人数は適正なのか。もしくは足りないのか。開設時間帯のことも合わせて対応して頂きたい。アンケートの中で、留守家庭児童会の土曜日の利用希望を見ると、利用する希望がないという結果も出ている中で、実際、土曜日・長期休みの利用児童数はどれくらいか。また、土曜日・長期休みに利用しなくても良いという数字もかなり多くでてきている。計画を作成する中で、どのような形で取り入れていくのか、1人でも利用する者がいれば、体制を指導員数4人でいくのか、検討していかなければならない問題ではないのかと考えます。

会 長：次の会議までに、平成25年度の土曜日と長期休みの利用者数をご提示ください。担当所管のほうではありませんか。

担当所管：先ほど、お話がありました会議の進め方の中で、ある程度審議を十分して頂く、素材を提供しなければならないと思っている。今回は先ほどご説明した、骨子について計画のアウトラインである。これを委員の皆様にご説明したので、これに沿って庁内会議の中で検討を進めていきたい。次回は、なるべく早期にたたき台、骨子を示しながら、戸別、具体的な議論をして頂けたらと思うので、少しお時間を戴きたい。今回の検討にあたって、1つ感想がある。従来、保護者のかたたちが、子育てに関し健全な育成のほかに、実は教育的な視点、見地で考えているのだなと思っている。行政サービスの中で、その教育的な見地で子育てを支援する。また、コストもかかるし、そこを民間と行政がどのように役割分担をしていけるのかということも大きな視点になると思うので、庁内検討会議の中でしっかり見つめながら、具体的には、先程留守家庭児童会の数字的なもの、その背景的なもの、その内容的なものも含め、できるだけご提示をさせて頂きながら、活発な議論をして頂きたいと思っている。ここまで、その素材下地ができていなかったことについて、お詫びする。今後、速やかに審議が進むように配慮していきたいと思う。

## 5 閉 会